

(様式1)

令和2年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立吾嬬第二中学校
校長名	駒田 るみ子

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から (平均正答率は、別表参照)

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・3学年は全国平均を上回る教科が多く、特に数学と英語で成果が見られる。・3学年は経年比較(2年次との比較)では国・数・英でAB層の割合が1.7、18.9、12.4ポイント増加し、D層の割合が全教科で減少している。・2学年は経年比較(1年次との比較)では国・数でAB層の割合が12.0、11.7ポイント増加し、CD層の割合が減少している。・1学年は経年比較(昨年の1年生との比較)では国・数・理でAB層の割合が7.4、7.6、6.3ポイント増加し、国語は、D層の割合が4.1ポイント減少している。・各教科の無回答率(特に英作文)が区の平均より低い。	<ul style="list-style-type: none">① 2・3学年の成果が見られる教科について、指導法を共有し、学校全体でCD層への学習支援措置(年IV期の学習補充教室)を行う。② 社会、理科はAB層の成績向上のため、教科任せではなく、ふりかえりシートや毎月2回の小テスト等、学年組織による基礎学力の定着・向上を図りつつ、発展学習の時間を確保できるようにする。③ 全教科において活用(記述、特に表現力)の力をつけるためホワイトボードを活用した話し合い活動を行い授業改善を図る。④ 全学年対象の放課後学習補充教室を引き続き実施する。(1学年の実力アップ講座も継続する。)

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・1学年は宿題がほぼ毎日出されると回答した生徒が全国平均より高い。・テストで間違えた問題を解きなおす生徒の割合が全国平均より13.2ポイント高い。・ノートを取り方を工夫している生徒の割合が全国平均より7.5ポイント高い。・学校の規則を守ること、相手を思いやって行動すること、挨拶などの規範意識が全国平均より高い。	<ul style="list-style-type: none">①家で毎日勉強すると回答した割合が、全国平均より低い。②宿題が毎日出ると回答した割合が2、3学年は全国平均より低い。このため、組織的に家庭学習に取り組ませる必要がある。教科ごとではなく学年で振り返りシートを実施する。③「丸わかりノートコンテスト」を継続実施する。④自分の意見を発表することや質問に答えることを苦手とする回答が全国平均より低いため、ソーシャルスキルトレーニングや「もやしちゃんとおおいふく」を取り入れた話し合う指導法の工夫が必要である。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全学年で授業に集中して取り組む生徒が多く、授業規律が徹底されている。 ・ 吾嬭二中プロシジャー（別紙参照）を意識した授業をすべての教員が実施している。 	<p>①（校内で実施している家庭学習調査結果より）一日の家庭学習の時間が短く、また定期考査前と定期考査後の家庭学習時間の差が激しいため、学年ごとの組織的な家庭学習の推進を行い、放課後学習補充教室を充実させる。</p> <p>②吾嬭二中プロシジャーをさらに徹底した授業改善を行う。③教員全員が研究授業を実施し授業力の向上を図る。</p>

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 基礎・基本の定着を図り、活用能力を高める授業の実践【授業改善】

- ①学習のねらいを明確にした授業の導入、学習の振り返りを意識したまとめの徹底
 - ・ 吾嬭二中プロシジャーを再確認し、共通理解のもと個に応じた丁寧な指導を心掛ける。
 - ・ 校内研修以外でも互いの授業を参観し合い意見交換することで、授業力の向上を目指す。
 - ・ 「丸わかりノートコンテスト」を後期中間テスト後に実施してノートを徹底し、学力の定着を図る。
- ②区学力調査結果の分析及び学力向上プランの作成
 - ・ 年明けから入試問題や過去の学力調査の問題に取り組み、弱点を把握させ、粘り強くそれを克服するような間違っ
たところを分析する授業を実践する。
 - ・ 全教員が学力向上プランに基づいた授業を実践及び検証をし、ふり返り期間を利用して全生徒への個別の学習支援
を行う。
- ③数学・英語（習熟度別少人数指導）の効果的な実施
 - ・ 各コースの生徒数も考慮しながら、学習事項を定着させるための、繰り返しの学習を進めることで学力向上を図る。
- ④班編成の工夫をした話し合い活動による思考力・判断力・表現力の向上
 - ・ 生活班に限らず、学習を意識して、生徒の実態に応じて習熟度も考慮した班編成を行う。
 - ・ 全教科において、ホワイトボードを使った二往復以上の話し合い活動により思考力・判断力・表現力の向上を図る。
- ⑤ICT機器の活用
 - ・ 授業でiPad等を用いて画像や動画を見せたり、ロイロノートや様々なソフトを活用したりすることで、視覚的
な効果が期待されるため、積極的に活用し、学習意欲向上と理解度のアップを図る。

(2) ふり返りシートの効果的な活用と、定期考査、各種コンテストの実施【繰り返し学習】

- ① 既習事項の復習や宿題として、各教科におけるふり返りシートの効果的な活用
 - ・ 10月27日（火）から後期中間考査までの3週間は朝学習として、ふり返りシートを実施する。各教科でふり返り
シートを活用し、自分の弱点を把握させるとともに個別に支援を行う。
 - ・ 前半部分を確認しながら、後半の実践問題を解くことで、自力解決の力を身に付けさせる。
- ② 年4回の定期考査の実施
 - ・ 考査3週間前より家庭学習計画を作成し、実施させることで学習量を前回より一日20分増やすことを目標にする。

・定期考査前に質問教室を実施するとともに、組織的に課題学習や朝学習の時間を設ける。

③授業における小テストの実施

・日常的な小テストへの取り組みを通じて、学習意欲を高めていく。再テストを徹底する。

④漢字コンテスト（12月）、計算コンテスト（2月）、スペリングコンテスト（年2回）の実施

・コンテストに向けての学習を通じて、読み書き計算の基礎を定着させる。

・実施前に朝学習を設けたり、宿題としてじっくり取り組ませたりする。

・目標点に届かなかった生徒に対して、歩行や居残り学習を実施する。

（3）学習機会の拡大【D・E層の生徒の基礎学力の定着】

①質問教室や補習教室の実施（階層の生徒を指名するとともに、希望者も対象とする）

・夏休みに補充教室を実施する。

・定期考査前や各種コンテスト前に放課後学習会（吾嬬二塾）を実施する。

・すみだSSTを活用して、国・社・数・理・英の学習補充教室を実施する。

I期～IV期（1年：26日間、2年：32日間、3年20日間）

・1年生の希望者対象の実力アップ講座を通年で実施する。（毎週火曜日 通年実施）

・11月中旬から、週に一度、放課後にPC室を開放しロイロノート活用講座を実施する。（2年生対象）

②宿題を計画的に学年として出す。（教科担当が学年所属にいない場合でも定期的に実施）

③学習サイクルの確立

・①、②により、家庭学習の意欲向上にもつなげ、学習習慣を身に付けさせる。

3 「令和3年度 墨田区学習状況調査」における目標

・5教科59観点のうち、全国平均を上回る観点を32以上にする。（今年度は29）

・全ての教科でD・E層の生徒の割合を40%以下にする。

すべての教科で学力向上プランを作成して、来年度の数値目標を設定している。

2で述べた「本年度の学力向上に関する主な取組」を確実にすることで、学校全体としての数値目標を達成する努力をしていく。さらに、後期に実施する定期考査及び小テストにより、授業改善の効果を検証する。